

富山経済同友会

会報

2023.9月
No.314



ハーグの在オランダ日本国大使公邸にて（第41回海外経済視察）

CONTENTS

- 第41回海外経済視察 2
- 7月会員定例会 4
- 【講演録】7月会員定例会：高野 翔 氏 4
- 第1回交流委員会 9
- 第4回全国立山大使の会 9
- 委員長会議 10
- 新会員歓迎オリエンテーション 10
- 第1回ESG経営小委員会（拡大委員会）... 11
- 第1回企業経営委員会（拡大委員会）... 11
- 第1回地域創生委員会 12
- 第1回文化スポーツ委員会 12
- 第1回人財活躍委員会 13
- 文化スポーツ・アスリート支援小合同委員会（拡大委員会）... 13
- 課外授業講師派遣 14
- 教育講演会等講師派遣 16
- 第1回教育問題委員会 17
- 第84回あけぼの会ゴルフコンペ 20
- トピックス（親子でチャレンジ小学生体験教室）... 20
- リレーエッセイ⑩（張田 真 氏） 21
- 活動報告 22
- 会員の入退会 26
- 景気定点観測アンケート結果 30
- 事務局からのお知らせ 31
- 今後の予定 31
- わが青春の1枚（杉木 智一 氏） 32

第41回海外経済視察

～オランダ・アイスランド～

SDGs、環境・エネルギー、ウェルビーイング先進地に学ぶ

(令和5年7月26日～8月3日)

第41回海外経済視察（麦野英順団長）は、7月27日(木)～8月3日(木)の日程で、オランダ、アイスランドの2か国を訪問し、総勢29名が参加した。

オランダでは、「在蘭日本商工会議所」を訪問し、日系社会の中核として①投資・事業環境、②教育、③文化・広報、④生活・厚生 of 4部会の幅広い活動内容や、オランダ進出日系企業のウクライナ情勢による影響や当面する課題等について説明を受けた。

次にハーグの「在オランダ日本国大使館」を訪問し、南大使から日本とオランダの経済関係や洋上風力発電・水素など再生可能エネルギーに力を入れるオランダのエネルギー政策等について説明を受け、その後訪問したウエストランドの「トマト・ワールド」では、無農薬で、徹底的なデータ管理による効率的で高付加価値なトマトの水耕栽培を視察し、スマート農業についての知見を深めた。

次に訪問したアイスランドでは、「在アイスランド日本国大使館」を訪問し、鈴木大使から、アイスランドの現地情勢やエネルギー政策等について説明を受けた。その後、豊富な発電量を誇る「ヘトリスヘイジ発電所」を視察し、蒸気を熱源にパイプラインで市街地への熱湯供給や二酸化炭素を玄武岩に封じ込めるシステム等について説明を受け、2つのプレートの真上に位置するアイスランドの特異な地形を生かした地熱発電に関する知見を深めた。



ブルー・ラグーンにて

参加者（29名 敬称略）

団 長	麦野 英順 (株)北陸銀行	特別顧問	高野 治 (株)リョーシン	代表取締役
	塩井 保彦 (株)広貴堂	取締役会長	相馬 淳一 JVS (株)	代表取締役
	大橋 聡司 大高建設(株)	取締役社長	栃谷 義隆 (株)ヤングドライ	代表取締役
	高林 幸裕 北電産業(株)	取締役社長	西野 晴仁 (株)福見建築設計事務所	代表取締役
	津嶋 春秋 (株)アーキジオ	取締役会長	堀井 鉄也 堀井鉄工(株)	取締役社長
	中沖 雄 (株)富山銀行	取締役頭取	山崎 良人 (株)JTB	富山支店長
	森田 弘美 (株)グループフィリア	代表取締役	舟根 秀也 富山県	商工労働部次長
	久郷 慎治 (株)久郷一樹園	代表取締役	麦野彩予子 麦野英順 令夫人	
	羽根 由 (株)生活ネット研究所	代表取締役	中沖 祥子 中沖 雄 令夫人	
	浅野 雅史 (株)バロン	代表取締役	稲田 千賀 稲田裕彦 令夫人	
	市森 友明 NiX JAPAN (株)	取締役社長	高野美代子 高野 治 令夫人	
	稲田 裕彦 救急薬品工業(株)	代表取締役	栃谷 リエ 栃谷義隆 令夫人	
	川合 紀子 (有)ステップアップ	代表取締役	西野佳保里 西野晴仁 令夫人	
	神崎 直志 三井物産(株)	理事北陸支社長	上田 順子 富山経済同友会	事務局長
	島田 好美 (株)島田商店	代表取締役		

日次	月 日	都 市 名	日 程
1	7月27日(木)	羽田～ アムステルダム	羽田空港集合 羽田空港～ロンドン～アムステルダム
2	7月28日(金)	アムステルダム	・在蘭日本商工会議所 訪問(ワールド・トレードセンター内) ・在オランダ日本国大使館 訪問(現地情勢等についてレクチャー) ・トマト・ワールド (Tomato World) 視察
3	7月29日(土)	アムステルダム	・アムステルダム市内 視察
4	7月30日(日)	アムステルダム～ レイキャビク	・アムステルダム市内 視察 アムステルダム～レイキャビクへ移動
5	7月31日(月)	レイキャビク	・在アイスランド日本国大使館 訪問 (現地情勢等に関するレクチャー) ・ヘトリスヘイジ発電所 (Hellisheiði Power Station) 視察
6	8月1日(火)	レイキャビク	・レイキャビク郊外 視察 ・ブルー・ラグーン 視察
7	8月2日(水)	レイキャビク～ ヘルシンキ	レイキャビク～ケプラビーク空港～ヘルシンキ～
8	8月3日(木)	ヘルシンキ～ 羽田～富山	～羽田空港～富山

〔思い出の一コマ〕



在蘭日本商工会議所



ワールド・トレードセンターにて



トマト・ワールド



南特命全権大使と



在オランダ日本国大使公邸にて



在アイスランド日本国大使館



ヘトリスヘイジ発電所



シンクヴェトリル国立公園にて



ブルー・ラグーン



「居場所」と「舞台」でウェルビーイングの深化を 高野 翔 氏 講演 — 7月会員定例会 —

7月会員定例会を7月24日(月)、ホテルグランテラス富山で開催。福井県立大学 地域経済研究所 准教授／ウェルビーイング学会 理事 高野 翔 氏が「ウェルビーイングなまちづくりーまちに居場所と舞台をー」と題して講演を行った。今回はウェルビーイング小委員会(東出悦子委員長)が主管し、会員約120名(オンライン視聴含む)が参加した。

最初に高野氏は、ウェルビーイングの定義について触れ、学問上では一般的に「身体的、精神的、そして社会的に良好な状態にある実感する幸せ」とされるが、ウェルビーイング(幸せ実感)は主観的なものであり、一義的な定義で捉えるのではなく、自分がどういったときに幸せを感じるかをぜひ考えてもらいたいと話した。

続いて、ウェルビーイングを中心とした国づくりを行う先駆的な事例としてブータンの取組を紹介。GNH(国民総幸福量)を最上位の国是とし、金銭的・物質的豊かさだけでなく精神的な豊かさを重視するブータンでは、国民一人一人の声を丁寧に聞き取る GNH 調査を実施し、「幸せ」を司る上位省庁 GNHC を設置するなど国の体制も整え、実際にウェルビーイングを公共政策に活用していると説明した。

また、このブータンの実践が国際社会に影響を及ぼし、今やウェルビーイングはSDGsに続く国際アジェンダとして議論されるなど大きな潮流であると説明。日本においても経済活動や働き方において重視されつつあり、富山での指標化や福井での主観による幸せ測定など、地域でも取組が進んでいると述べた。

さらに、「幸せ」を測った上で実際にウェルビーイングを深化させるためには、「人の尊厳を守る居場所」と「可能性を發揮する舞台」が地域に必要とする自身の研究におけるキーメッセージについて語り、福井での「居場所と舞台」の概念を活用したまちづくりの取組を紹介した。

最後に、高野氏は、ウェルビーイングは非常に広く大きな概念だが、家庭や職場そして地域において「居場所と舞台」をともにつくっていくことが、ウェルビーイングを進め深める第一歩になる、と話し講演を締めくくった。



7月会員定例会(2023.7.24)講演録

「ウェルビーイングなまちづくりーまちに居場所と舞台をー」

福井県立大学 地域経済研究所 准教授／ウェルビーイング学会 理事 高野 翔 氏



(プロフィール)

2020年から福井県立大学地域経済研究所に着任し、ウェルビーイングの概念を自治体政策に活用する研究とウェルビーイングを増進するまちづくり活動を実践。2009-2010年は、JICA(国際協力機構)にて、約20ヶ国のアジア・アフリカ地域で持続可能な国づくり・地域づくりプロジェクトを担当。2014-17年には、ブータン王国にて、人々の幸せを国是とする Gross National Happiness (GNH) を軸とした国づくりに協力。地元となる福井では、人の可能性に注目したまちづくり活動を実践。2013年、人の魅力を紹介する観光ガイドブック「Community Travel Guide 福井人」の作成、2018年、豪雪によってできなくなった事業を市民一人ひとりの力で復活させる「できるフェス」を開催し、共に Good Design 賞を受賞。福井人の幸福実感を福井新聞・日立京大ラボと協働調査する「未来の幸せアクションリサーチ」のクリエイティブディレクターを担当。越前市総合計画審議会会長、福井市及び永平寺町のまち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員なども務める。

◆ ウェルビーイングとは
「ウェルビーイング」を最も端的に訳せと言

われれば、「幸せ実感」と答えます。ただ、その定義を問われたときには、「どういうときに

KOUENROKU

幸せを実感しますか」と問い返すようにしています。「幸せの実感」というものは個々人的なものであり、一義的な定義では捉えきれないところがあるからです。とはいえ、学問上の定義としては、「身体的・精神的・社会的に良好な状態にある実感する幸せ」を「ウェルビーイング」と呼ぶことが一般的です。これは、WHOが「健康とは、身体的・精神的・社会的にウェルビーイングな状態」と定義したことを基にしたものです。

この「ウェルビーイング」という新たな物差しが日本社会に投げかけることは2つあると考えます。1つは、外部評価による従来の客観的・一元的な豊かさの測り方から、個々の価値観に基づく主観的な幸せ実感に寄り添うこと。もう一つは、健康という概念について、心身だけでなく「社会的にも」良好な状態というところまで広げて考えることです。

では、社会的に良好な状態というのは何か。これは当然国によっても違いますが、日本の地域社会にとっては、「孤独・孤立に陥ることなく、人とのつながりをはぐくみながら生きられること」ではないかと考えています。英国のメイ首相（当時）は2018年、この孤独こそが現代の公衆衛生上の最も大きな課題の一つであると宣言し、世界初の孤独担当大臣を任命しましたが、世界で2番目に孤独担当大臣が生まれたのが日本です。OECD諸国の中でも日本は、人とのつながり・人生を豊かにする関係性が最も乏しい国で、孤独感が極めて高いという調査結果が出ています。一方で、逆の面からのアプローチとして、ハーバード大学のロバート教授による幸せに関する長期調査の結果、「健康で幸せな生活を送るには、よい人間関係が必要だ。以上」という彼の端的な一言に示されるとおり、人とのつながりがウェルビーイングの源であることが科学的にも明らかとなってきています。つまり、日本人にとっては、孤独・孤立を予防し、多様な人とのつながりをはぐくめる社会の創出が必要なことを「ウェルビーイング」という言葉は投げかけているのです。

◆ ウェルビーイングへのアプローチ

ウェルビーイングへの学問的アプローチは、幸せとは何かを問う哲学的なことから始まりました。紀元前3世紀、アリストテレスが幸せとは「最高善」（最高目的）であるとしたように、古代から我々人間は社会的動物として常にそれを問うてきたわけです。

そして今、幸せを測定して要因を特定する社会科学的アプローチにより、人々や地域の幸せの状況が分かるようになりました。この幸せ実感を国づくりや公共政策に生かすことにチャレンジした国が、私がいたブータンです。

・ ブータンの挑戦

ブータンは、「金銭・物質的豊かさを偏重して追求するのではなく、伝統的な社会や文化、環境などにも配慮し、国民一人ひとりの精神的な豊かさを重視する」という、ウェルビーイング指標とも言えるような「GNH」（Gross National Happiness：国民総幸福量）を最上位の国是とし、憲法にも「国により、GNHの追求を可能とする環境要件の改善に刻苦奮闘しなければならない（ブータン憲法9条）」と刻んでいる国です。1970年代、先代の、若くして就かれた第4代国王の「GDPよりもGNHが大事」との一言を契機に、政治・行政がGNHを指標にし公共政策化したことがブータンのウェルビーイング政策の一丁目一番地となりました。

GNHは9つの領域（精神的な幸せ、健康、時間の使い方、教育、文化の多様性、ガバナンスの質、地域コミュニティの活力、環境の多様性、生活水準）で構成され、これらがバランスよく整っていれば人はより幸せを実感しながら生きられるという彼らの価値観に基づいてつくった指標であり、一元的ではないところがポイントです。振り返って、憲法9条にある「環境



要件」というのが、まさにこの9つの領域を指します。

GNHは、ある種国の健康カルテですので、国の健全度を測れます。ブータンは、人口が福井県ほどの約80万人ですが、国土は九州ほどありますので人口密度が非常に低い国です。その全土20県、約8,000世帯に対して、GNH調査のために若き調査員が回り、対象者1人に148の質問を2時間半ほどかけて丁寧に行います。

私も南部の約300人の村に同行したのですが、「あなたは困ったときに何人の人に助けてもらえますか」との問いに、ある20歳前後の男性は「50人以上かな」と答えたのです。せいぜい挙げて一桁かという日本人の自分と比して非常に衝撃的で、日本とブータンとの社会的つながりの違いを実感するとともに、一人ひとりの幸せの状態を測る上でこうした質的な測定がいかに大切かを痛感しました。

そして、測って見える化するだけではなく、PDCAを回す省庁の仕組みを整えたのがブータン独特の取組です。例えば農業省など分野ごとの担当省庁はブータンにもありますが、最も強い権限を持つオリジナルの上位省庁としてGNHを司るGNHCがあります。前述の調査を担うブータン王立研究所で捉えた人々のウェルビーイング状況の結果を受け、そこから計画策定や予算配分、人事配置などを行う組織です。GNHCがPDCAの中心にあることで、ウェルビーイングをしっかりと政策に生かす組織体制になっています。また、全政策について承認前にGNHの9領域を守り促進できるかを審査する政策スクリーニングツールや、政策事業後に事業のインパクトを経済性に限らずGNHの9領域から評価を行う取組もあります。

このように、ブータンは社会的つながりを大事にしながらウェルビーイングを中心に置いた国づくりを行う先駆的な存在です。

・世界的なメインストリームに

ブータンの実践は国際社会に影響を及ぼし、世界的なメインストリームとなっています。例えば国連では、「World Happiness Report」という世界中のウェルビーイングを測定する取組

を続けていますし、ニュージーランド、アイスランド、スコットランドなど、



国家運営の最上位にウェルビーイングを置く国も続々と生まれています。

加えて、2030年以降の、ポストSDGsの国際アジェンダとしてウェルビーイングを大きな指標の一つに使っていきこうという動きがあります。1930年代以降、グロース（量的拡大）を価値基準としてGDPを基に幸せの尺度を測っていたところから、2015年、サステナブル（持続可能性）及びディベロップメント（質的向上）に基準を切り替え、負の遺産を将来世代に残さないという姿勢をもつSDGsが生まれます。そして次は、おそらく国連生誕100年もあり2045年が目標年次になるのではないかとされていますが、その次の国際アジェンダの旗頭としてウェルビーイングが挙がり、一国の見方と言うとGDPではなくGDW、国際社会の目標としてSDGsからSWG sへと議論が始まっています。このように、ウェルビーイングは今や、小国ブータンの話に留まらず、大きく国際社会に届く物差し・概念になっているのです。

この概念は日本においても大事です。「幸福のパラドックス」と言われるように、日本ではGDPの上昇が幸福感や生活満足度に必ずしも結びついていませんし、昭和50年代以降、物の豊かさよりも心の豊かさに価値を置くとする世論調査の結果もあるからです。加えて、骨太の方針2021や成長戦略実行計画案といった重要な政府方針に「ウェルビーイング」という言葉が入る時代になりました。そして、今や、公共政策やまちづくりなどの政治・行政の面だけでなく、経営や働き方などの経済の面でも大きなトレンドとなりつつあります。仕事で頑張り、評価され、昇給・昇進すれば幸せという従来の日本人の見方とは逆転し、職場に満足できている、自分が表現できているというウェルビーイング実感の高い社員ほど、生産性や売上や創造性も

KOUENROKU

高いとの見方が強まっており、また、会社全体のウェルビーイング度は、企業価値や利益率、プロフィットと相関関係があるという調査結果も出ています。ウェルビーイングは、働き方や企業経営・企業の持続的成長を考える上での非常に大切な指標として注目されているのです。

次に、なぜ「福井」でもウェルビーイングが必要かという話です。(同じ北陸というアイデンティティを持ち、抱える課題も親和性がある「富山」「福井」ですので、皆さまには「富山」と置き換えて聞いていただければと思います。) 実は、(一社)日本総合研究所が発表する幸福度ランキングでは、福井県は5回連続(10年間)1位ですが、幸せをあまり実感しないとの声が巷からは聞こえます。この要因を端的に一つ挙げるとすると、幸せの測り方の違いとなります。これは即ち、日本と世界との違いになりますが、例えば文化の豊かさについて、日本では娯楽や本の消費額等で見ますが、ブータンでは地域のお祭りへどれだけ参加できているか等を聞きます。要は、ブータンをはじめ世界の主流は、その人の価値観に基づき自己評価する主観の測定ですが、日本では行政の統計データを使って都道府県で比較する形での客観指標に基づく測定であるわけです。

ですから、最近では私も福井県庁の皆さまと、主観によるウェルビーイングの測定も進めています。例えば、客観指標に基づけば、福井は仕事分野で6回連続全国1位です。失業率や正規雇用者率、高齢者有業率など量的に仕事があるという意味ではトップですが、主観的に、魅力的な職場、チャレンジできる環境といった質的な状況を尋ねると必ずしも高く出ませんので、そこに課題があることが分かります。そこで、私自身、福井新聞・日立京大ラボとともに、福井オリジナルの主観的な幸せ指標をつくらうと、紙面を通じてリサーチしました。福井人がどういふときに幸せを感じるかを聞くと、最多は、家族や友人との関係性から生まれる幸せ感、次に食と農、そして健康、時間の使い方、仕事などと続き、最少が文化でした。2番目に多い食と農ですが、例えばブータンにおける幸せ指標に「食べる」はありません。家族や仲間との食

事で社会的に良好な状態が生まれているのが福井らしさ(日本らしさ)と言えます。一方で、逆に不幸せを問う調査にも多くの回答があり、幸せの実感と不幸せの実感の両端を考えながら、自治体の皆さまとウェルビーイングを進めていく取組をしています。

◆ まちに居場所と舞台を

測定だけで事は前に進みませんので、個人が幸せを実感できる場を作るまちづくり的アプローチに入りたいというのが私の思いであり、「まちに居場所と舞台を」という研究のキーマッセージを発信し続けています。というのも、私の最初の職場はJICAで、当時のビッグボス・緒方貞子さんに憧れてそこでの仕事を始めたのですが、緒方さんの人間観は、「一人ひとり、侵されてはいけない“尊厳”があり、加えて、誰しもが“可能性”を持って生まれてきた」というものでした。私はそれに感銘を受け、尊厳を守る居場所と可能性を开花させる舞台が地域には必要との考えのもと、この2つをまちづくりとして取り組みたいと思ったのです。

内閣府の「子供・若者インデックスボード」で居場所とウェルビーイングの関係を見ても、居場所を複数持たれている方ほど自己肯定感やチャレンジ精神、将来への希望が高く、ウェルビーイング実感度があるので、まず居場所は非常に重要です。ただ、やはり舞台も必要です。三大「幸福論」を著した一人のアランは「幸せになりたい人は、舞台に上がらなくてはならない」と名言を残しましたが、日常の中で自分を表現できたり可能性が引き出されたりするような舞台が小さくても無数にある状態が、地域社会には非常に大事なのです。

実際、居場所実感・舞台実感が高ければウェルビーイング度は高く、加えて、その地域に住み続けたいという定住意思とも相関関係があることが分かり



ました。居場所や舞台がないと感じれば、出ていきたくなるのは自然な衝動ですので、地域社会のウェルビーイングや持続可能性を支えるためにも、居場所と舞台をつくることには大きな意義があります。

・まちづくり事例

～「ふくみち」「ふくまち大学」

事例としては、まず福井市役所と一緒に実施した「ふくみち」があります。これは国交省が旗振り役である歩行者利便増進道路「ほこみち」の福井版でありまして、車中心の道路から人が滞留し楽しむ場として道路空間を活用する社会実験です。デザインやストリートファニチャ、緑などを差し込みながら、具体的には、子どもの遊び場や不要本を集めた野外図書館、私設の公民館、あるいは花屋、おでん屋、音楽演奏のステージなど、しつらえや仕組みを設けることで、道路空間も居場所や舞台になり得て、人の幸せにつながるという一つのプロジェクト事例になります。

もう一つの「ふくまち大学」は、『「学びのまち」のまんなかで、ひらく。つながる。できる。』を校訓とした、老若男女が参加できる市民大学で、私も「まちの学長」となり、昨年7月に開学しました。福井では、新幹線開業等を前に、県や市そして経済界が一体となって「県都ブランドデザイン」というまちづくりビジョンを公表し大きな再開発を進めていますが、このビジョンには、単なるハード整備だけではなく、人が寄り合い、楽しみや暮らしや仕事生まれる「福井まちなか」を目指すもあり、この「ふくまち大学」はそれを支える活動になります。校訓の「ひらく」「つながる」「できる」は、人がウェルビーイングを実感するために大事な3つのニーズ、「自律性」「関係性」「有能感」を易しい日本語に言い換えたもので、ふくまち大学に参加すれば、主体性や感性が開け、新しい仲間や価値観に出会えたり、自分にできると実感したりできる。それらを後押しする講座を開設することで、学びを通じて福井のウェルビーイングなまちづくりに貢献できればと考えています。開学約1年となりますが、「ふくま

ち大学」は地元の方が先生となり、地元の方の好きなこと・得意なことと福井



まちなかの場所の特性を掛け算しているいろいろな面白くて楽しい講座を開いてきています。オープニングイベントでは、「まちの文化学部」が、福井市中央公園にて、隣接するホテルの壁面に投影する形で「スクール・オブ・ロック」を上映し、新しい学びを楽しむ機会をつくりました。また、一つの本を持ち寄り地域でできることを考える「まちの学び場をつくろうゼミ」や、コーヒーを飲みながら開かれた公共空間づくりについて議論する「まちの珈琲部」、県庁屋上活用の実証イベントとなる音楽の参加型ワークショップ「まちのドラムサークル」、まちなかの利活用や仲間づくりを応援する「まちの新歓」など、学びを通じた居場所と舞台づくりを行っています。

◆ 最後に

最後になりますが、マクロの視点からすると、ウェルビーイングは今や、国際アジェンダとして、地球や国や地域の在り方を考える上で非常に大事な概念・指標となっています。ぜひウェルビーイングという物差しを皆さまの日常の中に持って帰っていただければと思います。

加えて、ミクロの視点では、家や職場や地域に、小さくても居場所と舞台をつくっていくことの延長上に幸せ実感があると私は考えています。家族の中で自分の居場所があるか。職場が居場所と言えるような尊厳が守られる働き方・あり方になっているか、またはチャレンジを応援されるような舞台となっているか。そして、第3の場所として、まちという地域において居場所と舞台があるか。

ウェルビーイングは非常に広くて大きな概念ですが、地域社会に居場所と舞台をともにつくっていくことがウェルビーイングを進め深める第一歩になると、私は思います。

交流事業及び海外視察等の感染症対策ガイドラインについて

～ 第1回交流委員会 ～

5月9日(火)第1回交流委員会(中沖雄委員長)を事務局会議室で開催。

委員7名と大橋聡司担当役員が参加し、今年度の活動方針と活動計画等について意見交換を行った。

冒頭、中沖委員長と大橋担当役員のご挨拶があり、その後、当委員会で予定している今年度の活動計画について事務局から説明し、了承された。



中沖委員長

次に、今年度の第41回海外経済視察について、日程と参加申し込み状況を事務局から説明し、意見交換を行った。

その後、コロナが5類に見直しされるため、

昨年度策定された国内視察及び海外視察等の感染症対策ガイドラインを緩和する見直しについて協議を行った。



委員からは、「5類になりコロナ対策などまだ必要なか」という意見もあるだろうが、団体行動である以上、一定のルールを定めておいたほうが良い」と、引き続きガイドラインに基づきコロナ対策をしっかりと行うことが必要との認識で一致し、ガイドラインの改定について了承された。

委員会終了後、懇親会を開催した。

富山に熱いエールを

～ 盛会裏に終えた第4回全国立山大使の会 ～

6月16日(金)、東京駅近くのアーバンネット大手町ビル21F「LEVEL XXI 東京會館」で「第4回全国立山大使の会」が開かれた。11名の全国立山大使会員が参加し、富山経済同友会からは、麦野英順代表幹事、牧田和樹代表幹事、中沖雄交流委員長ら10名が参加した。

久しぶりの再会を喜び、近況を語りあい、開会前から会場内は熱気につつまれた。

まず、麦野代表幹事から、勝興寺の国宝指定、朝乃山の入幕など最近の話題が紹介され、「会員が少しずつ増え、本日は北海道、栃木、群馬などからも参加があり、さらに交流が活発になることを期待している」と挨拶。続いて鶴殿裕世話人にご挨拶をいただき、中沖交流委員長の乾杯の発声で交流会がスタートした。

会の中盤では、全国立山大使の会員の皆さんが、順次、近況報告をスピーチ。「富山の新鮮な魚介類を知ってしまうと東京では刺身や寿司は食べられない」「富山ほど恵まれたところはない」「仕事でも、つい富山をPRしてしまう」

など富山を懐かしむコメントが多数寄せられた。また、「学生を連れて行き新鮮な目で観光ルートを考える」、「仕事を通して富山とつながることを考えたい」など、富山を盛り立てようとする熱い思いが述べられた。

引き続き現役の同友会会員からも順次近況が報告され、2時間の懇談はあっという間に終盤となり、牧田代表幹事の閉会の挨拶で、和やかなうちに会は閉じられ、最後に全員で記念撮影。来年もまた会いましょうと再会を誓った。



7 委員長が方針を 4 小委員長が抱負を語る ～ 委員長会議 ～

5月23日(火)、令和5年度委員長会議がオークスカナルパークホテルで開催され、常任幹事以上の役員、各委員会委員長、小委員会委員長の計19名が出席した。

7つの委員会と今年度から新たに設けられた4つ(ESG経営、アントレプレナーシップ、ウェルビーイング、アスリート支援)の小委員会が2年間の活動をスタートする最初の集まりであり、まず、高林副代表幹事・企画委員長から、小委員会の考え方や小委員会と親委員会との関係などについて説明があり、共通の認識に立っ

た後に、各委員長から委員会の活動方針および事業計画について説明がなされた。



小委員会委員長からは、小委員会運営に関する抱負が述べられ、その都度質疑応答をしながら活発な意見交換を行った。

また、今後の主な予定について説明がなされた。

ようこそ富山経済同友会へ ～ 新会員歓迎オリエンテーション・懇親会 ～

交流委員会(中沖雄委員長)は、8月23日(水)に令和5年1月以降に入会または交代された新会員を対象としたオリエンテーション・懇親会をオークスカナルパークホテル富山で開催し、新会員42名を含む計67名が参加した。本行事は新会員の方に当会の活動を理解いただくとともに、役員らとの親睦を深める目的で毎年開催している。

オリエンテーションでは、麦野英順代表幹事が「まずもって、富山経済同友会に入会を心から歓迎申し上げます。本日は、同友会の歴史、活動についてご理解いただき、また幹部とも交流をしていただければと思います」と新会員への歓迎の言葉を述べた。引き続き「富山経済同友会について」と題



麦野代表幹事



麦野代表幹事による講話

して当会のこれまでのあゆみ・活動理念・活動状況等について説明し、行事・委員会への積極的な参加を呼びかけた。その後は新会員が一人ずつ自己紹介を行い、同友会活動への意気込みや抱負を述べた。

懇親会では、冒頭牧田和樹代表幹事が、「同友会へようこそ。ご入会された皆様を心から歓迎申し上げます。同友会は委員会活動が中心となりますが、実はもっと大切なことは、個人の資格をもって加入いただいております、それぞれが各自の意志で交流できるサロンです。人は人によって磨かれる。是非交流を深めていただきたい」と述べ乾杯した。



牧田代表幹事

終わりに、交流委員長の中沖雄常任幹事が「同友会は、楽しくて、明るい会です。是非今後とも交流を深めていきましょう」と述べ、一丁締めで懇親会を閉じた。



中沖交流委員長



環境省事務次官 和田篤也氏が講演

— 第1回ESG経営小委員会（拡大委員会） —

第1回ESG経営小委員会拡大委員会（松田光司委員長）を7月10日(月)、ANAクラウンプラザホテル富山で開催。記念すべき設立委員会において、環境省環境事務次官 和田篤也氏が「GXから見たビジネスの方向性」と題し講演を行った。当日は、会員約100名が参加した。

和田氏は、最初に、環境問題を取り巻く国内外の動向について説明。カーボンニュートラルが世界的な潮流となるに至る経緯に触れるとともに、日本国内におけるグリーントランスフォーメーション（GX）に向けた取組について、具体的な政策を挙げ解説した。

そして、社会変革には「3つの移行」が必要として、一定の認識が進む「カーボンニュートラル（脱炭素）」に加え、「ネイチャーポジティブ

（自然再興）」「サーキュラーエコノミー（循環経済）」の重要性の高まりを説くとともに、移行に向けた国の積

極支援体制や脱炭素先行地域の取組を紹介した。

最後に、それら「3つの移行」により「地域循環共生圏（ローカルSDGs）」へ発展させるというビジョンを語り、「ニーズオリエンテッドの新たなビジネスステージにある今、いかにビジネス展開すべきか」について、これまでの「For Environment（環境に配慮してビジネスをする）」ではなく、「By Environment（環境でビジネスを図り地域活性につなげる）」という企業経営の新たな視点を示した。

和田氏の明朗かつ丁寧な説明に参加者一同は熱心に聞き入り、講演後には活発な質疑応答がなされ、講演会は盛会のうちに終了した。



和田 篤也 氏



目からウロコの体験を！

— 第1回企業経営委員会（拡大委員会） —

第1回企業経営委員会拡大委員会（高木悦郎委員長）を7月19日(水)、ホテルグランテラス富山で開催。委員会は39名、講演会は90名（オンライン含む）の会員が参加した。

初開催となる委員会では、まず、高木委員長が委員会の活動方針について、「会員の皆様に目からウロコの機会を提供したい」と熱く語った。続けて、2023年度の計画について説明し、会員企業による事例発表、世界の政治経済情勢に関する講演、先進企業視察、同友会経営道場の運営など、今後のスケジュールを出席委員と共有した。

講演会では、日本銀行金沢支店長の吉濱久悦氏をお招きし「最近の金融経済情勢と金融政

策」と題してご講演いただいた。

吉濱氏からは、世界経済・日本経済のコロナ禍からの回復状況やロシア・ウクライナ情勢による影響、最近の金融政策についてご説明いただいた。

中でも、「潮目が変わりつつある」という言葉を用いて紹介された、日本企業の価格転嫁の動向や、賃金上昇・物価上昇については、参加者の関心を強く引き、講演後の質疑応答の時間にも、参加者からの質問が相次いだ。

膨大なデータに基づいた緻密な分析と丁寧な語り口に、参加した会員は終始聞き入り知見を深めた。



吉濱支店長



高木委員長



これからの富山のまちづくり

— 第1回地域創生委員会 —

7月20日(木)、富山電気ビルディングにおいて第1回地域創生委員会(池田治郎委員長)を開催し、委員74名が出席した。今回は、第一部を今次活動方針の共有、第二部を「公民連携まちづくり」をテーマとする講演会とし、二部構成で行った。

第一部では、池田委員長より今次活動方針を説明。富山県の活性化方策の検討・実践を図るべく、今次は「魅力あふれる持続可能なまちづくり」をテーマに取り組みとした。また、具体的な活動計画として、特に「産学官連携のあり方」「持続可能なエリアマネジメント」「魅力ある都市デザイン」についての調査・研究を挙げ、「関係人口100万人」の実現に向け、経済人として富山のまちづくりについて自由に意見交換をしていきたいと話した。

第二部では、富山県経営管理部 公民連携推進監の吉田守一氏が「共創／運営型の公民連携まちづくりを目指して」と題し講演を行った。

吉田氏は、目指すべき公民連携まちづくりを



池田委員長

語るうえでのこだわりとして、演題に掲げた「共創／運営型」を挙げ、行政・経済界一体で地域に新たな魅力・価値を創造するだけでなく、その価値を高めるべくマネジメントしていくことが重要と指摘。キーワードとして「民間主導・行政支援」での集客力向上を挙げ、そのために「共創・運営型の公民連携」の取組が必要と説くとともに、公民連携まちづくりプロセスに「共創／運営型」を反映するための6つの視点を紹介した。

また、持続可能なエリアマネジメントとするためには、起点となる「未来ビジョン」が必要と説明。富山においては、県の成長戦略の中核である「ウェルビーイング」の観点を盛り込むことも重要とした。

最後に、吉田氏は、「富山の経済人にはまちの未来ビジョンを描く確かな力がある、世界に誇れるウェルビーイングな富山を公民連携で実現したい」と述べ講演を締めくくった。



吉田 守一 氏



「劇場に何ができるか」

— 第1回文化スポーツ委員会 —

第1回文化スポーツ委員会(武内孝憲委員長)を、7月21日(金)、オーバード・ホール中ホールで開催し、会員65名が参加した。武内委員長が「1年目は、中ホール開館のタイミングに合わせ、文化施設の研究と地域の文化のあり方について、皆さんと一緒に根を張って考えていきたい」と挨拶。今年度の活動方針とスケジュールについて説明した後、2班に分かれて、施設内を見学。設備や各部屋の活用方法等について、職員の説明を受けた。その後、劇作家・演出家タニノクロウ氏に「劇場に何ができるのか」と題し、ご講演いただいた。市民や企業に愛されるフランスの劇場「ラ コンデュクションパブリック」を紹介



タニノ クロウ氏

し、「このオーバード・ホール中ホールも、富山に生きる喜び、気持ちいい、面白い、ポテンシャルを増幅してくれる装置となると思う。この劇場はパワーや夢を持っていると思う。富山の新しいミーティングポイントとなり、皆さんに愛される身近な場所になってほしい」と話した。引き続き、タニノクロウ氏を囲んで懇親会を開催し、53名が懇親を深め、会場は熱気に満ちて大いに盛り上がった。



「男女格差後進国：日本」、ダイバーシティ推進を ～ 第1回人財活躍委員会 ～

8月17日(木)第1回人財活躍委員会(森弘吉委員長)をホテルグランテラス富山で開催し、27名の委員が出席した。森委員長から挨拶の後、担当役員および副委員長の紹介がなされた。

続いて、今年度の活動計画案が説明され、高度人材の確保育成・活力向上に向けた、新たな協働・連携事業の推進として、富山県と連携した企業説明会への参加、外国人留学生の就労支援に関する調査・研究等について取り組むことが示された。



森委員長

次に、富山県女性活躍専門コンサルタント 永合由美子氏を講師に招き「企業経営とダイバーシティ推進～アンコンシャスバイアスを超えて」と題し講演いただいた。永合氏からは、日本の男女間格差の現状、女性活躍推進の必要

性について分かりやすく解説いただいた。

その後、アンコンシャスバイアス(無意識偏見)について簡単なミニテストや、講師の過去の体験談、他企業の良好事例を紹介。最後に「経営層からのコミットメントの継続的な発信と、現場やボトムアップからの行動変容の合わせりが重要である」と説明した。

また、活発な質疑、意見交換もなされ、参加委員は知見を深める貴重な機会となった。



永合 由美子 氏



プロアスリートの未来予想図

佐藤 寿人 氏講演 - アスリート支援小・文化スポーツ合同 (拡大委員会) -

第1回アスリート支援小委員会(遠藤忠洋委員長)及び第2回文化スポーツ委員会(武内孝憲委員長)を、8月25日(金)、ANAクラウンプラザホテル富山で開催し、元サッカー日本代表の佐藤寿人氏が講演を行った。72名が参加。始めに佐藤氏の現役時代のゴールシーンが映し出され講演が始まった。佐藤氏は、「プロサッカー選手の引退年齢の平均は、26.9歳。プロになる前に在籍したアカデミー時代、プロの厳しさを目の当たりにし、いつどうなるかわからない世界に恐怖を感じた」と話し、プロサッカー選手として初めて、インターンシップを経験し、「サッカー選手として、プレーだけでなく、サポート企業での就業経験は、選手生活にとってプラスになった」と語った。J



遠藤委員長

リーグ選手 OB 会会長として、若い選手達に、「練習以外の時間も大切に、アンテナを高くして、自分のキャリアについて真剣に考える事が大切だと伝えている」また、会員からの質問に対し、「長く活躍する選手は傾聴力がある。一人の人間として、色々な事に「耳を傾け、目を向けること」が大切。企業の方にも、選手の職業体験や社会人としてのアドバイスなど交流する場を持っていただく事は選手の社会的スキル、そしてキャリアデザインに繋げるためにも貴重な経験になる」と語った。懇親会は19階天空で行われ、富山の夜景を眺めながら、サッカー談義で盛り上がった。佐藤氏は各テーブルを周り写真撮影に応じ、盛会のうちに会を閉じた。



佐藤 寿人 氏



働くこととは

— 課外授業講師派遣 —

第1回 高岡第一高等学校

6月7日(水)、廣田大輔氏(十全化学㈱取締役社長)が高岡第一高等学校にて1・2学年330名を前に「これからの時代を生き抜く」と題して課外授業を行った。

廣田社長は冒頭、生徒たちに「皆さんは何のために働きますか?」と問いかけた。そして、働く動機には、直接的動機と間接的な動機があり、直接的動機である、楽しみ(仕事自体が楽しい)・意義(仕事による社会貢献価値を感じる)・可能性(仕事を通じて自らが成長できる)は、自身のパフォーマンスを向上させるが、間接的動機である感情的圧力・経済的圧力・惰性はパフォーマンスを下げってしまう。将来仕事を探すときには、自分が直接的動機を感じられる仕事は何かを考えてほしいと説いた。

続いて、会社の平均寿命は「23.8年」と紹介。会社を存続させるためには、社会の変化に合わせて会社が変わらなければならない、会社で働く人もそれに合わせて変化しなければならない。

十全化学は73年続いているが、創業時の事業は、現在は売上の1%にも満たず、変化することで存続してきたと語った。

そして、変わることは勇気がいるが、変わらないと社会のニーズに合わなくなる。変化のスピードが速い世の中では、絶対にこれが正しいというものはない。「周りがこうだから」ではなく「自分がどう思うか」が大切。周囲に流されず、自分の目で確かめてほしいと熱く語った。

最後に、「自分で自分にキャップをはめて、自らの限界値を自身で決めないでほしい。明確で具体的な目標を掲げ、その目標に向け、目の前のやるべきことを積み重ねていってほしい」とエールを送り講演を締めくくった。



第2回 高岡市立芳野中学校

6月20日(火)、牧田和樹氏(㈱牧田組取締役社長)が高岡市立芳野中学校にて2週間後に14歳の挑戦を控える2学年204名を前に「働くこと」と題して課外授業を行った。

牧田社長はまず、生徒にとって身近な「ラーメン屋」を例に、「店が提供する商品・サービス」と「客からの評価・代金」が釣り合うことが商売の大原則であると説明した。

続いて、会社と社員の間でも同じことが言え、「社員の労働」と「会社からの評価・給料」は釣り合っており、社員が働いて会社の役に立つことで、会社が客の役に立ち、客から会社が評価・代金を得て、それを基に会社が社員を評価し給料を与えるという連鎖になる。評価されて給料を得るということは、社員にそれに見合った力があるということだと述べた。

そして、客の役に立とうと努力することで成長することができる。働くことで手にすることができる一番大きなものは「給料」ではなく「成長」であると熱く説いた。

次に、14歳の挑戦で感じてほしいこととして、「その会社が客にどのように役に立っているのか」「自分が役に立つためには何を身に付けなければならないか」「これまで学校で学んだことがどう役に立つか」を挙げた。

「国語力や計算力など学校で学ぶことが、社会に出て働く際の基礎になっていることを14歳の挑戦を通して実感してほしい」と述べた。

最後に、「将来自分の仕事を選ぶときには、職業・職種にこだわらないでほしい。『誰の・どのように役に立ちたいか』という目的を明確に持つことが大切で、この目的が明確であれば、手段(=職業)は無限にある」とアドバイスし授業を締めくくった。



第3回 砺波市立般若中学校

7月5日(水)、山野昌道氏(株チューリップテレビ取締役社長)が砺波市立般若中学校にて2学年41名を前に「人生を幸せにする3つのコツ」と題して課外授業を行った。

山野社長ははじめに、働くことの意味について、「社会はみんなで作るものであり、そこでは何らかの役割を果たさなければならない。これが働くということではないか」と話した。

その中で、自分に合う仕事や自分のやりたいことを見つけることは簡単なことではないとし、「夢は変化していくものであり、遅れてもよいから、自分が夢中になれるものをあせらず見つけなければよい」としたうえで、自分のやりたいことを見つけるためには、「考え続け、行動し続け、一日一日を一生懸命に生きることが重要」であり、「行動し続けることで何か変化が生まれる」と説いた。

さらに、仕事のやりがいについて、「やりがいのある仕事は辛く、厳しいものであることが多い。苦勞のないところにやりがいはない」と強調し、「努力して何かを達成しようとするとその瞬間、苦勞そのものがやりがいに変わる。

そこに感動や感激が生まれる。やりがいは自分で作り上げるものである」と語った。

また、人生を楽しむためには、行動することが大切であるとし、「いろいろと悩むこともあるが、行動すれば思ってもみなかったことが起きる可能性がある。やってみないと分からない。面白いことは自分で探そう」と述べた。

最後に、人生を幸せにするコツとして、①迷ったら、やる、②人のせいにはしない、③何をやってもうまくいくと考える、の3つを挙げ、「未来は一日一日の積み重ねであり、充実した未来のためには充実した一日一日を送ることが大切」だと語り、「人生は選択の連続、どちらが正しいかは一生分からない。選んだ方が正解と思えるよう、未来に向かって努力をしよう」とエールを送った。



第4回 高岡市立牧野中学校

8月4日(金)、牧田和樹氏(株牧田組取締役社長)が高岡市立牧野中学校にて、7月に14歳の挑戦を終えた2学年85名を前に「働くこと」と題して課外授業を行った。

牧田社長はまず、「商売」とは、①売り手と買い手がいること、②商品とそれに見合う対価が支払われることで成り立つものであると説明した。そして、この関係は物を売買する場だけではなく、社会の様々な場で成立していると述べたうえで、「学校」の「顧客」「商品」「対価」は何かを会場の教員に問いかけた。教員からは、顧客は「生徒や保護者」との発言があったが、牧田社長は、「学校の顧客は“社会”であり、商品は“生徒”。税金を対価に、生徒が社会で生きていくための基礎を教育するのが学校だ」と語った。

さらに、この関係は会社と社員との間でも成立し、社員は会社に労働を提供し、会社はその対価として社員に給料を支払う。社員が会社の役に立つことで、結果的に顧客の役に立ち、顧客が会社に代金を支払い、その代金をもとに会

社が社員に給料を払うという大きな循環が生じているのだと述べた。

続けて、「社員は、会社の役に立つよう努力することで成長できる。人間は自身の成長(自己実現)を本能的に求めており、成長することでこの欲求が満たされ、生きがいになる」「働くということは、ただお金を得るためではない。自分が成長するために働くのだ」と、働くことを通じて成長することの大切さを強調した。

最後に、「仕事を探すうえで大切なのは、職業や職種を探すことではない。自分が誰のどんな役に立ちたいかをまず考えてほしい。そのうえで、それを実現するための手段として職業や職種を考えてほしい」と熱く語り授業を締めくくった。



「メタバースで考える教育の未来」 大橋聡司氏・キャリア教育推進委員会にて講演



5月17日(水)、大橋聡司氏(大高建設(株)取締役社長)が富山県キャリア教育推進委員会にて県立高校教諭約40名を対象に「メタバースで考える教育の未来」と題して講演とワークショップを行った。

大橋社長は冒頭、「急速な情報化や技術革新により社会が大きく変化しており、子どもたちの65%が将来、今は存在しない職業に就くと言われており、今までの常識に捉われたキャリア教育では間違った方向に進んでしまう可能性がある」と問題提起した。

続いて、生産性の低さを長時間労働で補うことによって世界第3位の経済大国に留まっている日本の現状を説明したうえで、「教員の長時間労働を是正しない限り、それを見て社会に出る子どもたちの価値観が変わらないため、生産性は向上しない。教える“価値”を変えていかなければならない」と説いた。

そして、これからの教育に求めるものとして、「日本人は失敗を否定的に捉えがちだが、失敗は成功につながるプロセス。失敗は悪いことではなく、失敗をどう生かすかが大事だと伝えてほしい」「法律は人がつくるもの。社会が大きく変化する

中、法整備が現実には追いつかないことがあるが、その時は道徳に基づいた判断が必要になる。子どもたちに“道徳”を身に付けさせることが大切」と語った。

次に、社員がやりがいを持って働ける魅力ある会社となるよう、大高建設ではSDGs、健康経営、業務効率化等、様々なことに取り組んでいると紹介。その取り組みの1つであるメタバース事業について、「メタバースは社員からの提案で始めた。“社会貢献する”という企業理念に沿っていけば、私が理解できる範囲にこだわらずに取り組むこととしており、メタバースは今や当社が全国のトップランナーとなっている。教育にも活用できると思うので、興味があれば当社に声をかけてほしい」と語り、ワークショップに移った。

ワークショップでは、大高建設総務部の山本係長が、同社のメタバース事業を実演も交えながら紹介した。「メタバースは不可能を可能にするので、子どもたちの創造力を育むことができる。ぜひ教育現場でも活用してほしい」と熱く語り、ワークショップを締めくくった。

「楽しく生きる」

稲葉伸一氏・富山県商業教育振興会定期総会にて講演



7月3日(月)、稲葉伸一氏(株三四五建築研究所代表取締役)が令和5年度富山県商業教育振興会定期総会・講演会において、県内商業科教員ら35名を対象に「楽しく生きる」と題して講演を行った。

稲葉代表はじめに、自社で手掛けた事業を紹介しながら、建築士の仕事は「アタマの中にあるイメージを見えるカタチにする仕事」であり、現場でたくさんの方が競い合うことでよい仕事になり、よい仕事はより良い仕事に繋がると語った。

次に、「学校は“苗床”、企業は“畑”である。企業で花を咲かせて実をつけられるよう、学校は生徒を苗に育て上げて社会に出すような場であってほしい」と、教育を支える教員の力量や器としての学校の重要性を説いた。

そして、教員に求めることとして、

①挨拶の大切さ：第一印象は最初の2秒で決まり悪い印象を与えるとなかなかカバーできない。好印象を持たれるような挨拶することが大切だと子どもたちに教えてほしい。

②「いいからやれ」ではない：子どもたちが腑に落ちるよう、何のためにやるかを説明してほしい。

③好奇心を持ち続ける：世の中は川のようなもの。流れの中で何もしなければどこかに流されてしまう。流されないよう自分を動かす原動力となる好奇心を持ち続けてほしい。

④ゴールはない：そこにたどり着けばもう何もしなくてよいというゴールなどなく人生はずっと途中経過である。

⑤今が一番楽しい：人生には理不尽なことも多いが、身の周りの「良かったこと」を探し出すことで、「今が一番楽しい」と感じることができ、周りも楽しくなる。

と語った。
終わりに、「“人生は楽しい”と子どもたちに胸を張って言えるような先生になってほしい」と熱いメッセージを贈り、講演を締めくくった。

「働き方改革誰が進める？」

土屋誠氏が小・中・県立学校 3 年次校長研修会にて講演

7月27日(木)、土屋誠氏(日本海ガス(株)取締役社長)が小・中・県立学校3年次校長研修会(富山県教育委員会主催)にて、受講者35名を対象に、「働き方改革誰が進める？」と題して講演を行った。

土屋社長ははじめに、社長就任4年目である自身が校長3年目の受講者とはほぼ同じ立場にあると述べ、就任時は、ちょうどコロナ禍が始まったこともあり、重責に押しつぶされそうになったが、3年目には落ち着いて物事を考えられるようになったと語った。

次に、社会のシステムが複雑化し、コンプライアンス重視の風潮が高まる中、正確な業務運営・ルール順守のために業務量が増加し、また、競争が激化する中、高品質なサービスを提供するため絶え間ない努力が求められており、働く人の生活はゆとりがなくなっていると語った。

続けて、働き方改革のための自社の取組みとして、①他流試合の推奨：社員が仕事以外で積極的に社外の人と関わることで成長し、企業の成長につながる、②ノー残業日を週2回設定、③毎日

の予定表を入力しチームで共有、④RPAの導入、を紹介した。

そのうえで、企業における働き方改革は、“社長を含めたリーダー”が進めるべきであり、リーダーは、自分の思いを部下に押し付けるのではなく、スタッフとコミュニケーションを取り、スタッフの声を傾聴し、スタッフがリーダーを信頼して取り組んでくれる環境を作らねばならないと説いた。

最後に、地域企業が抱える課題として、「企業の成長には人材育成が不可欠で、自社でも様々な人材育成策に取り組んでいるが、若手社員の“目標達成へのプロセスを自分で考える力”にやや物足りなさを感じる」と述べたうえで、教育現場へのお願いとして、「企業が求める人材は学校生活を経て育成されており、“目標達成に向けたプロセスを検討し実行すること”の大切さを学校生活の中で子どもたちに教えてほしい」と熱く語り講演を締めくくった。



SDGs

4 質の高い教育を
みんなに



次世代を担う人材育成を

— 第1回教育問題委員会 —

第1回教育問題委員会(土屋誠委員長)を8月8日(火)、富山電気ビルディングで開催し、委員27名が参加した。

冒頭、土屋委員長が、「古い歴史を持つ教育問題委員会において継続して取り組んできた事業を引き続き実施するとともに、これまでの活動を参考に新たな展開を図り、意義ある



土屋委員長

2年間にしていきたい」と挨拶した。続けて、今次委員会の活動方針・活動計画として、課外授業講師派遣制度の利便性向上、前次委員会の提言実践、県教育委員会との意見交換、海外教育事情視察の後継事業の検討、富山大学との連携など、取り組むべき課題を説明した。

次に、富山大学大学院教職実践開発研究科の林誠一教授を講師に招き、「教育のこれまでと“これから”」と題しご講演いただいた。林教

授は、学習指導要領の変遷をたどりながら、日本の教育がこれまで重視してきたことを紹介したうえで、「“これから”の教育は、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え判断する力を育む、“探究的な学び”を重視している」と説明した。そして、「子どもは家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨くもの。子どもたちに社会を生き抜く力を身に付けさせるために、学校と企業の連携を進めたい」と熱く語り講演を締めくくった。



林教授



次世代を担う教員へのメッセージ

富山市中堅教諭等資質向上研修で講演



<東澤 善樹 氏>

東澤社長は、はじめに、富山経済同友会を「自分のビジョンをどう実践していくかを語り合うことができる団体」と紹介した。その

ために、①理想・夢を声に出して知ってもらう ②それを理解してもらうために説明をつくる ③意見をよく聞いて自分のビジョンに取り込む・組み込むこの①～③が必要であると説いた。

さらに、東澤社長の考え方、行動の根本にあることについて「行動力基本動作10か条」を挙げた。「第1条 ぐずぐずと始めるな、時間厳守。行動5分前には所定の場所で仕事の準備と心の準備を整えて待機せよ」。「第10条 行動は命令者への結果報告によって完了する。やりっぱなしは何もしないよりまだ悪い。報告及び事後処理を完璧にやれ」。第1条は

何かに取りかかる前のこと、第10条は何かをし終えた後のことであり、取りかかる前の心持ちから、終えた後の報告に至るまでが重要であることを受講者に伝えた。

最後に、リーダーとしてもってほしい心持ちを自身の失敗談を例に語った。「上から目線でダメ出しして指示を出すようなリーダーは、今や求められていない。21世紀は相手に共感し、そっと背中を押すようなリーダーが理想視されている」と言われているが、「ダメ出し」をしてしまったとのことであった。下がってしまった従業員のモチベーションをどう上げるかは、受講者にとっても、身近な悩みとなっていたようである。東澤社長は、グループワークの中で、受講者の質問を受け止めながら、「事情を言える雰囲気をつくり、現在やっていること、これからやろうとしている未来形の話聞くことが大切である」とアドバイスし、講演を締めくくった。



<羽根 敬喜 氏>

羽根代表は、自己紹介の後、自社の創業年、従業員数、雇用形態による構成等を紹介し、学校という組織との類似性があることを話した。その話で受講者との距離が一気に縮まり、受講者は身を乗り出して話に吸い込まれていった。

次に、羽根代表が組織のリーダーとして普段から心がけていることとして、

- ・立場、処遇の違い、性別、年齢に関係なく、どの人と接する場合にも態度を人によって変えないようにしていること
- ・内部だけでなく外部の方と接する場合も出入り業者、お客様の取引の大小に関係なくできるだけ態度は一定にすること
- ・朝礼の際、指示や確認と同時に表情や声色で一人

一人の状況を把握するとともに日ごろから従業員とすれ違う際に声かけするようにしていること

を大切にしていると伝えた。

続けて、人材育成では、挨拶が基本であり、自然と人が集まり、よい人の輪・よい循環ができることや共用している場所や道具に気を配りきれいに整っていることがよい仕事（ものづくり）に大きく影響することを自らの経験等、具体的な事例を交え話した。

最後に、社会に出れば結果が求められ、困難や理不尽、うまくいかないこともあるが、結果にとらわれず、諦めずに一生懸命に真剣に物事に取り組むことの大切さを子どもたちに伝えてほしいと訴えた。そして、「教職というのはとても大変な仕事であるが、人づくりや人の成長にかかわるとても尊く、やりがいのある仕事であるので頑張っていてほしい」とエールを送り講演を締めくくった。

6月29日(木)、東澤善樹氏(とうざわ印刷工芸(株)取締役社長)、羽根敬喜氏(富美菊酒造(株)代表取締役)、牧真奈美氏(株)クルサー代表取締役)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長)の4氏が、経験年数11年目の教員58名を対象とした中堅教諭等資質向上研修(富山市教育委員会主催)にて「組織のリーダーとは」「若手の育成」をテーマに講演を行った。



<牧 真奈美 氏>

牧代表はまず、介護サービス事業所「(有)ケア・サポートまき」を設立した経緯や事業内容を紹介した。また、

将来なくなると予測される仕事を紹介し、それらの仕事には「コミュニケーション」「臨機応変」「クリエイティブ」なことが含まれており、それは介護や教育の現場で求められる資質や能力にも当てはまると説明した。

次に、自身の「コミュニケーション」についての失敗談を紹介した。将来を期待していたスタッフが辞める際に「牧さんにはついていけない。私は牧さんのように優秀ではない」と言われたが、それは誉め言葉ではなかった。しかし、自分を省みたときに、スタッフに「仕事を優先して当たり前、それくらいできて当たり前」という自分の価値観を押しつ

けていたことに気づいた。この失敗から「人は自分と同じ考え、価値観ではない」「『わかってくれるだろう』ではない。相手に伝わる言葉で伝える」「人は変えられない。変わるのは自分」ということを学んだと述べ、現在、牧代表が部下とのかかわり方で大切にしている、「部下と一方向ではない双方向の信頼関係をつくる」、「相手を変えようとするのではなく、まずは自分を変える」、「箱ではなく、風呂敷のような器になり、一つにまとめる」について紹介した。

後輩とのかかわり方に悩む受講者の話を聞いた牧代表は「11年目の先生方と1年目、2年目の先生方には見えているものが違う。その頃の自分はどういう気持ちであったか、何と声をかけてもらったか、気持ちが楽になったかを考えてみるとよい。また、後輩の先生方が今の先生方と同じ立場に立ったときに、言葉の真意に気づいてくれる」と熱く語り、講演を締めくくった。



<遊道 義則 氏>

遊道社長は冒頭に「40分程度の研修で、受講者が変わることも絶対はない。しかし、変わるきっかけは、たった一言でも十分で、

大事なことは、受講者が「変わりたい」と思っているか、「変える」と思っているかである」と述べ、参加者に受講のきっかけとその目的を尋ね、参加者に「中堅であることの自覚」と「研修の意図を明確にすること」を促した。

そして、児童・生徒とのコミュニケーションについて、「コミュニケーションの前提」として、「私たちが反応するのは、相手の言葉を通じての自分の体験・想像であって現実ではない」、「すべての言動には肯定的な意図があり、私たちは常にそのとき可能な最善の選択をしている」、「私たちは省略と歪曲

と一般化で話をしている」、「自分のコミュニケーションの意味は自分が得た相手の反応である」と説明し、続けて、決して先入観を持たずにまずは事実を確認すること、意識して言葉の一つひとつを大事に使うこと、自分自身のコミュニケーションに責任をもつことが大切であると話した。

更に先生の本来の役割は「teaching」であるが、昨今はセラピーやカウンセリングの要素が加わり、ほぼ「coaching」の役割が求められている。特に児童・生徒に接する際には「承認する」ことが必要で、さらに「Be(在り方)」「Do(行動、言動)」「Have(結果、成果)」のどれに焦点を当てるかが重要であると説いた。そして、実はこの事は受講者自身の人生についても当てはまり、「先生方は今まさに、立ち止まって冷静に客観的に、『誰のために何のために自分がいるのか』を見つめる時だ」と話し、「先生方自身がコミュニケーションを楽しみ、素敵な人生を歩んで欲しい」とエールを送った。

第84回あけぼの会ゴルフコンペ

— 優勝は吉村直樹氏 —

6月4日(日)、呉羽カントリークラブ立山コースにて第84回ゴルフコンペを開催し、71名のあけぼの会会員が晴天の下、熱戦を繰り広げた。

懇親会は麦野代表幹事の挨拶と中尾特別顧問の乾杯で始まり、盛り上がりのうちに表彰式へと続いた。

優勝の栄冠はネット70.4で吉村直樹氏（富山エフエム放送株）が獲得、麦野代表幹事から優勝賞品と記念品の富山ガラス工場の片口の器が手渡された。優勝の弁で吉村氏は「昨日同じコ

ースを回って学習したことが優勝につながった。次回以降も参加して優勝できるよう精進していきたい



い」と述べた。

また、麦野・牧田代表幹事から代表幹事賞の提供があり、麦野代表幹事賞は、尾崎浩二氏（株みずほ銀行）が、牧田代表幹事賞は井深亜希氏（三井住友海上火災保険株）が受賞し、それぞれ富山県ゆかりのガラス作家による作品が贈られた。

事務局が昨年度の会計報告を行った後、長谷川達雄世話人代表が挨拶し、「今年度から大澤孝嗣社長と山口純平社長に世話人に加わっていただくので皆さんご承認ください」と述べ懇親会を締めくくった。

(敬称略)

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDPC	NET
優勝	吉村 直樹	46	41	87	16.6	70.4
準優勝	針田 正尚	43	42	85	14.2	70.8
3位	山本 覚	42	43	85	14.2	70.8
4位	高木 悦郎	53	50	103	30.8	72.2
5位	森藤 正浩	40	43	83	10.7	72.3



科学の世界に触れよう！

～小学生の親子が科学体験～

8月19日(土)、「親子でチャレンジ小学生体験教室」（主催：富山県教育委員会）が開催され、小学5～6年生の親子20組42名が参加した。

体験教室の前半は、参加者は県総合教育センターで科学工作・実験（風船ホバークラフト作り）に取り組み、後半は、当会会員企業が実施する「ドローン体験」、「教育版マイクラフト化学実験」に参加した。

ドローン体験は、(株)スカイインテック（高瀬幸忠取締役社長）と(株)チューリップテレビ（山野昌道取締役社長）が共同で実施。参加者はドローンの機体やドローンの活用方法などについて説明を受けた後、実際にドローンの操縦を

体験した。

教育版マイクラフト化学実験は、(有)ステップアップ（川合紀子代表取締役）が実施。米マイクロソフト社が提供するゲーム「教育版マイクラフト」を用いて、原子、元素、化合物といった化学の世界をゲームの仮想空間内で体験した。

子どもたちは終始、目を輝かせながら夢中で活動に取り組み、夏休みの楽しい思い出になった。



ドローン体験



教育版マイクラフト化学実験



幸せの正体

張 田 真

(ハリタ金属株式会社 代表取締役)

幸せはなるものではなく感じるもの。幸せになるには「知識」と「技術」が必要である。これは弊社において私が代表取締役の立場から社内に発信している幸せに関する考え方です。主観的な幸せは多様かつ掴みにくいため私はじめ多くの方も他人様の幸せの実現という難題には頭を悩ませているのではないかと思います。

弊社の経営理念は、私たちの理念「世界に循環を、あなたと幸せを。」です。幸せを最上段に掲げる理由として国際社会では Well-Being は背景に人権を抱え雇用側は社員の幸せになるアプローチを軽視することは幸せになる機会を奪うとの企業責任論にも発展しています。この様な時代背景の中、私は社員の「幸せ」が最強の成長エンジンと判断し、主観的な幸せに対し科学的なアプローチを行い理念と価値観、人事制度ともリンクし仕組み化しました。

富山県は Well-Being を政策の最上段に掲げており一県民としてとても共感しています。社内においても Well-Being を掲げることは分かりにくい、数値化しにくいとの声が多く出ました。そこで我々は理念のロジックと言語定義の改定を繰り返しこの度新しい経営理念と人事制度の改定にたどり着きました。幸せを理念の最上段に特定の形に定義せず個々を尊重した多様な幸せとして掲げ、私たちの価値観(行動指針)に Well-Being を明記しました。Well-Being は世界保健機関 (WHO) 憲章での提唱を元に、「Well-Being とは精神的、肉体的、社会的に満たされた状態」と定義しました。そしてこの3つの側面を因数分解し精神的 (ハラスメント防止、ストレスチェック解析、心理学・脳科学から自己肯定感を高める等のノウハウ・技術を提供)、肉体的 (健康経営の高度化、食事に関する高度な知識)、社会的 (SDGs を活用した自分とステークホルダーとのコミュニケーション

ン) のように可視化し Well-Being 実現のための具体的なアプローチ体制を実現しました。

私は経営理念に幸せを掲げるためには、まず「幸せの正体」を経営者として理解するため幸せに関する多くの書物を読みました。漠然とした「幸せ」は実現することができないからです。ある幸せに関する膨大な実証実験を行った書籍から衝撃的な結論を確認しました。「他人を幸せにすることは極めて困難だ、なぜなら幸せはなるものではなく感じるものであるから。」この「幸せの正体」は、小さな幸せを感じる能力無しに真の幸せになることはできないことを示唆しております。弊社では小さな幸せを感じる能力はスキルであると定義し、幸福力を高める成果が実証済みであるスリーグッドシングスを仕事の終了時に報告することを始めました。小さなことでも今日あった良かったこと、幸せと感じたことを自分でアウトプットすることで自己肯定感と幸せの感度を高めることを目的としています。その内容は部署で共有され組織内は常に小さな幸せの言葉に満ちています。その結果、会社の成長のための最強エンジンが動き出していることを肌を感じています。

経済同友会派遣事業として中学校での講演を行う機会を得ていますが、生徒にも幸せの正体と、幸せには「知識」と「技術」が必要であることを伝えています。感想文を受け取ると、「幸せの正体を知りハッとしたり」「幸せを探す能力を身につけます」などの回答が多くあり中学生にもかなり刺さっているようです。今後多くの幸せな社員と共に今の延長にはない Well-Being な社会構築に取り組み地域貢献の一助としたいと思います。

(次号はサクラパックス(株)代表取締役の
橋本 淳 様です。)

活動報告

5月1日～8月31日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
7月24日(月) 16:30～18:30 ホテルグランテラス 富山	7月幹事会・会員定例会（ウェルビーイング小委員会主管） 講師：福井県立大学 地域経済研究所 准教授 ウェルビーイング学会理事 高野 翔 氏 演題：「ウェルビーイングなまちづくり～まちに居場所と 舞台を～」	約120名 (オンライン 視聴含む)

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
5月9日(火) 17:00～18:00 事務局会議室	第1回交流委員会	・活動計画について ・海外経済視察について ・国内視察、海外視察等の感染対策ガ イドラインについて	10名
5月10日(水) 11:00～12:30 事務局会議室	人財活躍委員会 第1回正副委員長会議	・委員会活動方針及び活動計画に ついて	10名
5月12日(金) 17:00～18:15 事務局会議室	文化スポーツ委員会 第1回正副委員長会議 ・アスリート支援小委 員会合同会議	・委員会活動方針及び活動計画に ついて	7名
5月15日(月) 17:00～18:15 事務局会議室	教育問題委員会 第1回正副委員長会議	・委員会活動方針及び活動計画に ついて	9名
5月16日(火) 17:00～18:15 事務局会議室	企業経営委員会 第1回正副委員長会議	・委員会活動方針及び活動計画に ついて	8名
6月6日(火) 17:00～18:15 事務局会議室	地域創生委員会 第2回正副委員長会議	・県外視察について ・第1回委員会について	10名
6月7日(水) 17:00～18:15 事務局会議室	企業経営委員会 第2回正副委員長会議	・景気定点観測アンケートについて ・今後の活動内容について	7名
6月12日(月) 17:00～18:15 事務局会議室	人財活躍委員会 第2回正副委員長会議	・女性活躍推進について ・外国人活躍推進について ・兼業副業人材の活用について	9名
6月13日(火) 18:00～20:30 俵屋	企画委員会	・第1回委員長連絡会議	6名
6月26日(月) 11:00～13:00 事務局会議室	文化スポーツ委員会 第2回正副委員長会議	・今後の文化プログラムについて ・年間スケジュールについて	7名
7月10日(月) 17:00～20:10 ANAクラウンプラザ ホテル富山	第1回 ESG 経営小 委員会	・講演会（拡大委員会） 講師：環境省 環境事務次官 和田 篤也 氏 演題：「GXから見たビジネスの 方向性」	約100名
7月14日(金) 11:30～13:00 事務局会議室	教育問題委員会 第2回正副委員長会議	・今度の活動予定について	7名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
7月19日(水) 16:30~20:10 ホテルグランテラス 富山	第1回企業経営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度活動計画について ・講演会（拡大委員会） 講師：日本銀行金沢支店長 吉濱 久悦 氏 演題：「最近の金融経済情勢と金融政策について」 	90名 (オンライン 視聴含む)
7月20日(木) 17:00~20:00 富山電気ビルディング	第1回地域創生委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・活動方針について ・講演会 講師：富山県経営管理部公民連携 推進監 吉田 守一 氏 演題：「共創／運営型の公民連携 まちづくりを目指して」 	74名
7月21日(金) 17:00~20:15 オーバード・ホール 中ホール	第1回文化スポーツ 委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度活動計画について ・オーバード・ホール中ホール施設 見学 ・講演会 講師：劇作家・演出家 タニノ クロウ 氏 演題：「劇場に何ができるのか」 	65名
8月4日(金) 17:00~20:00 事務局会議室	企業経営委員会 第3回正副委員長会議	<ul style="list-style-type: none"> ・今度の活動予定について (先進企業視察) 	8名
8月8日(火) 17:00~20:00 富山電気ビルディング	第1回教育問題委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度活動計画について ・講演会 講師：富山大学大学院教職実践開発 研究科 教授 林 誠一 氏 演題：「教育のこれまでと『これから』」 	27名
8月17日(木) 16:30~20:10 ホテルグランテラス 富山	第1回人財活躍委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度活動計画について ・講演会 講師：富山県女性活躍専門 コンサルタント 永合 由美子 氏 演題：「企業経営とダイバーシティ 推進 ～アンコンシャスバイ アスを超えて～」 	27名
8月25日(金) 17:00~20:15 ANAクラウンプラザ ホテル富山	第1回アスリート支援 小委員会・第2回文化 スポーツ委員会（合同 拡大委員会）	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会 講師：元サッカー日本代表・ Jリーグ選手 OB 会会長 佐藤 寿人 氏 演題：「プロアスリートの未来予想図」 	72名
8月31日(木) 17:00~18:00 事務局会議室	地域創生委員会 第3回正副委員長会議	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに関するアンケート結果 について ・第2回地域創生委員会（県外視察） について 	10名

○課外授業講師派遣

開催日時	学 校	対 象	講師・演題
6月7日(水)	高岡第一高等学校	1・2学年330名	廣田 大輔 氏 「これからの時代を生き抜く」
6月20日(火)	高岡市立芳野中学校	2学年204名	牧田 和樹 氏 「働くこと」
7月5日(水)	砺波市立般若中学校	2学年41名	山野 昌道 氏 「人生を幸せにする3つのコツ」
8月4日(金)	高岡市立牧野中学校	2学年85名	牧田 和樹 氏 「働くこと」
8月25日(金)	富山県立砺波高等学校	1学年159名	尾崎 浩二 氏 「銀行の仕事について」 三原 克久 氏 「総合会社とは」

○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所	出席者
6月1日(木)	経済同友会中央日本地区事務局長会議	三重県松坂市	上田事務局長

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
5月13日(土)	G7 富山・金沢教育大臣会合「地元主催夕食会」	ANA クラウン プラザホテル富山	麦野代表幹事 牧田代表幹事
5月14日(日)	令和5年度県民ふるさとの日記念式典	富山県教育文化 会館	牧田代表幹事
5月17日(水)	富山県キャリア教育推進委員会（講師）	富山県総合教育 センター	大橋副代表幹事
5月19日(金)	「富山マラソン2023」第1回実行委員会	富山県民会館	上田事務局長
5月23日(火)	2023年度委員長会議	オークスカナル パークホテル富山	19名
5月23日(火)	北陸新幹線建設促進大会 ・令和5年度北陸新幹線建設促進同盟会総会	明治記念館(東京)	麦野代表幹事
6月4日(日)	第84回あけぼの会	呉羽カントリー クラブ(立山コース)	71名
6月8日(木)	海外経済視察事前説明会	タワー111ビル 会議室	24名
6月9日(金)	海外教育事情視察参加者選考会	事務局会議室	8名
6月16日(金)	第4回全国立山大使の会	LEVEL XXI 東京會館 オリオンルーム	全国立山大使11名 当会10名
6月20日(火)	キャリア教育指導者養成研修（助言者）	パレブラン 高志会館	稲田 祐治 氏 土屋 誠 氏 高瀬 幸忠 氏 東澤 善樹 氏 羽根 敬喜 氏 福崎 秀樹 氏

開催日	内 容	場 所	出席者
6月22日(木)	第21回あいの風とやま鉄道利用促進協議会	富山県民会館	麦野代表幹事
6月27日(火)	G7教育大臣会合富山県委員会第3回総会	富山県民会館	上田事務局長
6月29日(木)	富山市中堅教諭等資質向上研修(第1回)	Toyama Sakuraビル	東澤 善樹氏 羽根 敬喜氏 牧 真奈美氏 遊道 義則氏
7月1日(土)	オーバード・ホール／中ホール開館記念式典・柿落とし公演	オーバード・ホール 中ホール	牧田代表幹事 武内文化スポーツ 委員長
7月3日(月)	富山県商業教育振興会定期総会・講演会	富山商業高等学校	稲葉 伸一氏
7月7日(金)	富山県高付加価値旅行者向けホテル誘致検討委員会	富山県民会館	麦野代表幹事
7月9日(日)	海外教育事情視察事前研修会(第1回)	事務局会議室	23名
7月27日(木)	小・中・県立学校3年次校長研修会	富山県民会館	土屋 誠氏
7月27日(木) ～8月3日(木)	第41回海外経済視察	オランダ・ アイスランド	29名
7月29日(土)	海外教育事情視察事前研修会(第2回)	事務局会議室	20名
8月22日(火)	キャリア教育指導者養成研修(助言者)	パレブラン 高志会館	稲田 祐治氏 土屋 誠氏 高瀬 幸忠氏 東澤 善樹氏 羽根 敬喜氏 福崎 秀樹氏
8月22日(火)	富山市中堅教諭等資質向上研修(第2回)	Toyama Sakuraビル	伊東潤一郎氏 村上 宏康氏 茂住 昌子氏 山野 昌道氏
8月23日(水)	新会員歓迎オリエンテーション・懇親会	オークスカナル パークホテル富山	67名
8月28日(月)	県立中学校校長研修会	富山電気 ビルディング	稲田 祐治氏

会員の入退会

(7月幹事会)

1. 最近思うこと
(社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど)
2. 生活信条 (座右の銘等)
3. 趣味

入会



いづか しずま
五日市 静 馬

(株)宣伝社
代表取締役
(紹介者：浅野雅史氏)

1. 昨今のコロナ禍やウクライナ情勢を踏まえますと、60年以上にわたってサインや屋外広告を生業としている弊社としては、いかに「平時」が有り難いことかと痛感いたします。
2. 出来る限り徳を積むことを通じて、自分に関わる全ての方々の役に立っていくこと。
3. お酒をいただきながら料理すること。



おぎ の げんくろう
萩 布 原 駆 郎

萩布倉庫(株)
代表取締役
(紹介者：中沖 雄氏)

1. こんなに何が起こるかわからない胸躍る時代に生きることができてご先祖様に大変感謝しています。
2. デスクでなにかを生み出したことは一度もない。
3. ゴルフ



かね こ まさ ひと
金 子 政 史

松原建設(株)
技術顧問
(紹介者：市森友明氏)

1. それなりの齢になり、企業の社会貢献や、若い方々の育成・成長に強く関心を持つようになりました。微力でも社会、富山の発展に力を発揮できれば幸せと思います。
2. 思い続けた望みは叶うが、思うことをやめた望みは叶い事がないこと。
3. 山歩き (高くない山)、植物観察



かわ かみ みつ ひこ
川 上 光 彦

(株) KUU
代表取締役
(紹介者：麦野英順氏)
高木悦郎氏)

1. 富山は地方創生やバリューアップの可能性のある魅力ある土地と思い、昨年7月東京より移住しました。子供の世代に貢献できる継続性がある事業に取り組みたいと思います。
2. 感恩報謝、天空海闊
3. トレラン、登山



たか い り か
高井理加
(一社)越中八尾観光協会
事務局長
(紹介者：高林幸裕氏)

1. 伝統と経済は「人」でつながっています。「人」のつながりを大切に、自分の居る環境の中で将来に向けて必要と感じる挑戦をしていきたいです。
2. 壁は越えるために現れる。謙虚に大胆に。人とのつながりを大切に。
3. おわら（唄と三味線を修練中）



まつ ばら ゆう た
松原悠大
松原建設(株)
代表取締役
(紹介者：市森友明氏)

1. 会社を更に変化させるために、歴史や社史を基にした考え方を体系化し、会社全体をそこに向けていく努力をしています。それには私自身の深化が必要不可欠だと考えています。
2. 亡己利他、猪突猛進、深慮遠謀
3. 音楽鑑賞、音楽制作、写真撮影、料理



えん た ま き あき
遠田昌明
(株)読売新聞東京本社
北陸支社長
(前：野崎広一郎氏)

1. 高岡駅前に支社を開いて62年。「唯一の全国紙」として、富山県のお役に立ちたいと励んでおります。
2. 何事も達成するまでは不可能に思えるものである（マンデラ）
3. ガーデニング、資格取得、家系ラーメン巡り



のう きく ち はる
能作千春
(株)能作
代表取締役
(紹介者：中沖 雄氏)

1. コロナ禍で変化の大きい時代だからこそ、人と人の繋がりが大切であると思っています。私達は、人と地域に支えられています。人を大切に出来る会社でありたいと思います。
2. 人生は出会いがすべて。出会った人を喜ばせることから道は開ける。
3. 子どもと時間を過ごすこと。時短料理。

交代



いの うえ よし あき
井上吉明
三菱ケミカル(株)富山事業所
事業所長
(前：久保田喜文氏)

1. 化学メーカーの工場として、10年先を見据えた生産改革や技術開発に取り組み、富山の経済発展・環境課題の解決に貢献していきたい。
2. いつも明るく、前向きに
3. 富山観光、ゴルフ、Moto-GP 観戦



おお や しゅう じ
雄谷秀次
(株)ドコモCS北陸
富山支店長
(前：山岸 達氏)

1. 働くことをとおして、お客様や地域社会に感謝し、パートナーの皆様と連携しながら、恩返ししていくこと。
2. 生きているだけで丸儲け（by 明石家さんま）、自他共栄
3. ゴルフ、旅行、絵画鑑賞



かわ い はじめ
川 合 肇
ダブルツリー by ヒルトン富山
総支配人
(前：前川博之氏)

1. 北陸地区でお客様に一番に選んで頂けるホテルにする
2. 猪突猛進
3. 旅行



くろ かわ なかば
黒 川 央
(株)北陸銀行
執行役員富山地区事業部本部長
(前：庵 栄伸氏)

1. SDGs、DX、ウェルビーイングなどキーワードの背景にある本質的な課題を見極め、その実現に向け、地域ぐるみで意識を醸成し、協業して取り組んでまいりたい。
2. 「拙補勤以」自分の拙さは努力して補い、様々な経験を通し人間性を高めていきたい。
3. ゴルフ、音楽鑑賞、山登り・散策など



こ しま たつ や
小 嶋 達 也
北陸コンピュータ・サービス(株)
代表取締役
(前：多賀 満氏)

1. 会員の皆さまとの交流を通じて、数多くの気づきや刺激も得て、社員にも伝えていきたいと思います。
2. 為せばなる。
3. 最近ハマっているのはNetflix



しま たに ひろ し
島 谷 浩 司
北日本放送(株)
取締役社長
(前：瀧脇俊彦氏)

1. 社業：一本足の経営からの脱却を目指します。社会情勢等：変革が激しくついていくのが大変ですが、これが果たして人間にとって幸せなのだろうかと考えることがあります。
2. 努力は夢中に勝てない
3. 登山



しら かわ とも ゆき
白 川 友 之
日本放送協会富山放送局
局長
(前：葛城 豪氏)

1. 日本は、失われた30年から脱却できるか。どう好循環を生み出し欧米との格差を埋めていけるのか。国や地域の活性化に微力ながら貢献したい。
2. 勤儉力行
3. ゴルフ



す たに ひろ し
須 谷 浩 史
関西電力(株)
理事北陸支社長
(前：久米一郎氏)

1. ウクライナ問題を受け世界情勢は一変しエネルギー危機に直面。気候変動問題対応も待った無しの状況。資源少国の我国としてエネルギーの在り方に関する国民的議論が必要か。
2. 着眼大局、着手小局。大いなる精神は静かに忍耐する。
3. 読書、ウォーキング



たなか きたし
田中 悟史
(株)日本政策投資銀行
富山事務所長
(前：山本 覚氏)

1. 歴代所長が培ってきた、地元経済・社会との信頼関係を承継・発展させ、人材創出、官民連携、次世代まちづくりなど、地域創生やSDGsに貢献してまいります。
2. 10人いれば、10人とも正しい。あるのは違いだけ。
3. 食べ歩き、ゴルフ



たまき しげのり
玉置 滋憲
ANA クラウンプラザホテル富山
総支配人
(前：浅沼源太郎氏)

1. ANA クラウンプラザホテル富山を皆様にさらに愛されるホテルになるよう目指してまいります。
2. 情熱
3. 旅行・アイスホッケー



なかの あつひこ
中野 敦彦
(株)富山エクセルホテル東急
総支配人
(前：松橋拓己氏)

1. 食文化や伝統料理を体験・探求するフードツーリズムが旅行者にとって魅力あるコンテンツになっています。食を通じて富山の魅力を伝えていきたいと思っております。
2. 一隅を照らす
3. テニス、ジョギング、登山



ぬまた まさひろ
沼田 雅博
(一財)北陸経済研究所
理事長
(前：浅林孝志氏)

1. 北陸の将来について明るく建設的な議論を呼び起こす土台となるべく努めたい。
2. 「良心之全身ニ充滿シタル丈夫」同志社大学の創立者 新島襄が残した言葉
3. 園芸



はやし まさよし
林 政義
北陸電力(株)
常務執行役員
(前：長 高英氏)

1. 人口減少による地域の活力低下を回避すべく、地域の魅力を高めていかなければいけない。当面続くヒトの争奪戦に勝ち残るため、地域と一体となった取組みを推進したい。
2. 「偶然は準備のない者に微笑まない」
3. ゴルフ(月に1~2回程度)とウォーキング



みずたに かずひさ
水谷 和久
北陸電気工事(株)
取締役会長
(前：矢野 茂氏)

1. 来年4月から、働き方改革関連法による罰則付き時間外規制が建設業にも適用されます。担い手確保のためにも、皆さんの理解を得ながら改革を進めていきたいと考えています。
2. 家族との時間を大切にしよう心がけています。
3. 読書



みなみ なお き
南 直 樹
北銀リース(株)
代表取締役
(前：宮村 樹氏)



むら すぎ しん や
村 杉 真 哉
北陸電力(株)
執行役員富山支店長
(前：上野 等氏)

- この6月に社長に就任いたしました。北銀リースは、ほくほくFGの一員としてお客様のリース需要にきめ細かく対応し地域の発展のため少しでも役立つよう努力してまいります。
- 学ばばすなわち固ならず
- 旅行

- VUCAの時代でありバックキャストとフォアキャストの両面で歩むべき道を模索する必要があると感じている。その意識で自社課題だけでなく社会課題の解決に貢献したい。
- 意志あるところに道は開ける
- スポーツ鑑賞(特に好きなのはラグビー)

所属企業変更

稲田 祐治
加越能バス(株)相談役
上野 等
北陸電力(株)執行役員富山支店長
綿谷 雅代
ワタヤ自動車(株)会長

- 株ミライノ交通観光ラボ 代表取締役
- 株ケーブルテレビ富山 取締役社長
- ワタヤ・オフィス 代表

(令和5年7月24日現在 会員数436名)

■第27回 富山景気定点観測アンケート

2023年後半の景気見通しは「緩やかに拡大する」

企業経営委員会(高木悦郎委員長)は、本年7月に「第27回富山景気定点観測アンケート」を実施した。2023年後半の景気見通しや各社の業績予想、原材料・エネルギー価格上昇による影響、パートナーシップ構築宣言に関する取組状況、賃上げについて176社(回答率42.7%)から回答が寄せられた。

主な項目

<p>◆2023年後半(7~12月)の景気見通しは?</p> <p>緩やかに拡大する 59%</p> <p>横ばい状態が続く 31%</p> <p>緩やかに後退する 7%</p>	<p>◆2023年7-9月期の売上高(予想)は?</p> <p>増収 41% 横ばい 45% 減収 14%</p> <p>◆2023年7-9月期の経常利益(予想)は?</p> <p>増益 35% 横ばい 45% 減益 20%</p>
<p>◆原材料・エネルギー価格上昇による、現時点の影響は?</p> <p>影響が大きい 46%</p> <p>ある程度影響がある 44%</p> <p>それほど影響はない 9%</p> <p>影響はない 1%</p>	<p>◆十分な価格転嫁を行えているか?</p> <p>不十分 75%</p> <p>十分 25%</p>
<p>◆「パートナーシップ構築宣言」の認知度は?</p> <p>全く知らない 14%</p> <p>言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない 45%</p> <p>内容は知っているが、宣言は検討していない 24%</p> <p>宣言を検討している 7%</p> <p>既に宣言している 10%</p>	<p>◆2023年度の賃上げの実施状況は?</p> <p>実施済み 78%</p> <p>今後実施予定 14%</p> <p>実施しない 8%</p>

事務局からのお知らせ

事務局体制に変更がございましたので、担当委員会とあわせてお知らせいたします。

<富山経済同友会事務局メンバー> 7月1日より

事務局次長 ^{いちい りょうすけ} 市井 涼祐 (株)北陸銀行 (人財活躍、アントレプレナーシップ小、あけぼの会)
事務局員 ^{たかさか みわこ} 高坂 美和子

なお、有藤直樹氏(前 事務局次長)は、6月30日をもって退任いたしました。
今後ともよろしくお願い申し上げます。

今後の予定

開催日	対象	行事	場所
10月13日(金)	幹事以上	10月幹事会	ホテル ニューオータニ高岡
10月13日(金)	全会員	10月会員定例会・懇親会 演題：「この国が再び立ち上がるために」 講師：Zホールディングス(株)Zアカデミア学長 武蔵野大学アントレプレナーシップ学部長 伊藤 羊一 氏	ホテル ニューオータニ高岡
10月15日(日)	全会員	「同友会の日」(カターレ富山戦)	富山県総合運動公園 陸上競技場
10月23日(月)	正副代表幹事 交流委員長	経済同友会中央日本地区会議	愛知県名古屋
10月31日(火)	全会員	第3回企業経営委員会(拡大委員会) ・世界情勢に関する講演会 講師：(株)三井物産戦略研究所 特別顧問 緋田 順 氏	オークスカナル パークホテル富山
12月4日(月)	全会員	海外経済視察報告会・年末定例会 (企業経営委員会主管)・懇親会 講師：(株)ユージェネ 代表取締役社長 出雲 充 氏	ANAクラウン プラザホテル富山
1月11日(木)	幹事以上	新年幹事会・富山県知事との昼食会	富山電気 ビルディング

〔表紙写真〕

ハーグの在オランダ日本国大使公邸にて

第41回海外経済視察では、オランダ、ハーグにある在オランダ日本国大使公邸を訪問した。
ハーグは、アムステルダムから車で1時間ほど、約60キロ離れた、国際司法裁判所等の国際機関が多数集積する国際都市。公邸では、南大使夫妻と大使館職員の出迎えを受け、オランダ情勢についてブリーフィングの後、ビュッフェをごちそうになる。写真は、南大使と令夫人を囲んで公邸玄関前で撮影した一枚。

発行所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電話 (076) 444-0660

FAX (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

https://www.doyukai.org/



1969年7月立山登山（前列左から3番目が筆者）



低山で体力作り

立山製紙株式会社 代表取締役

杉木 智一

先日、再来年の大阪・関西万博の入場料が大人1人の入場券で7500円となった記事を見ました。万博といえば、1970年に開催された大阪万博を思い出します。ちょうど小学校を卒業し春休みと夏休みを利用して、親類の家に泊まり万博に行きました。お目当ての一つが、アメリカ館のアポロ11号が持ち帰った「月の石」で、約2時間半待って見たことを思い出します。この石は、1969年7月20日（日本時間21日）着陸船「イーグル」が、月の「静かの海」に着陸して採取してきたものです。アポロ11号月面着陸は衛星生中継で放送されましたが、放送を見ることは出来ませんでした。当日、富山ではお決まりの小学生立山登山で室堂の「みくりが池山荘」に宿泊していました。翌日、わが校では初めて立山に登頂することが出来ました。この登山が山が好きになったきっかけになりました。

その後、会社に入社するまでに数回、立山登山をしました。入社後は三交代勤務であったため、平日の行動がしやすく、夏の天気の良い日に落差日本一の「称名滝」の写真撮影をしようと思い立ちサンダル履きの軽装で出かけました。

撮影場所を探して、八郎坂の第一・二展望台からもう少し足を進めると、滝が下に見えるようになりました。サンダルでは厳しい坂道を進むと上部から自動車のエンジンをふかす音が聞こえ、坂を上り切ったことに気が付きました。藪の中はなだらかな道になり、アルペンルートのアスファルト舗装に出ました。弘法のバス停まで行き大日岳をカメラに収めました。サンダル履きでは下りの坂道は大変で、次回から八郎坂は登山靴で来ようと思いました。

現在は、日帰りで行ける低山を中心に山歩きを楽しんでいます。平成24年7月に、立山弥陀ヶ原と大日平の湿地がラムサール条約に登録され木道などの整備がされました。高山植物を目当てに、八郎坂から弥陀ヶ原や反対側にある大日岳登山口から静かな大日平を散策したりしています。途中、剣岳から大日岳経由して下山してくる大きなリュックを背負った登山者と会います。彼らを見ると少しでも、強靱な体力と精神力にあやかりたく思います。これからも健康で登山が出来るように、日々、体力維持に努めたいと思います。